

石山・芸術の森地域 **石山部会 ニュース**

これまで2つの連合会、4つの小学校を一体とした「石山・芸術の森地区検討委員会」として検討してきましたが、より議論を深めるために、今回からは「部会制」を導入し、石山部会と芸術の森部会に分かれて検討することとなりました。検討委員会ニュースについても、各部会ごとに発行していきます。

**第1回石山部会  
について**

6月9日(金)午後6時から、石山会館(石山まちづくりセンター)で第1回石山部会を開催し、今後の検討スケジュールや統合校の場所などについての検討を行いました。

**石山小学校と  
石山南小学校  
の概要**

今年度の石山小学校と石山南小学校の概要は下記のとおりです。

学校名	石 山 小 学 校		石 山 南 小 学 校		
開校年次	明治32(1899)年		昭和56(1981)年		
	平成26年5月1日時点	平成27年5月1日時点	平成26年5月1日時点	平成27年5月1日時点	
児童数・ 学級数	1年	25名 / 1学級	31名 / 1学級	31名 / 1学級	41名 / 2学級
	2年	32名 / 1学級	24名 / 1学級	32名 / 1学級	30名 / 1学級
	3年	32名 / 1学級	31名 / 1学級	39名 / 1学級	34名 / 1学級
	4年	28名 / 1学級	33名 / 1学級	43名 / 2学級	40名 / 1学級
	5年	32名 / 1学級	28名 / 1学級	36名 / 1学級	41名 / 2学級
	6年	33名 / 1学級	33名 / 1学級	35名 / 1学級	34名 / 1学級
	計	182名 / 6学級	180名 / 6学級	216名 / 7学級	220名 / 8学級
	特別支援 学級	-	-	情緒：5名/1学級 知的：2名/1学級	情緒：5名/1学級 知的：2名/1学級
教職員数	15名	15名	18名	19名	
建物面積	4,984㎡ (校舎4,197㎡、屋内運動場787㎡)		5,466㎡ (校舎4,430㎡、屋内運動場1,036㎡)		
建物建築 年度	校舎：昭和50(1975)年度 屋内運動場：昭和42(1967)年度		校舎：昭和55(1980)年度 屋内運動場：昭和55(1980)年度		
校地面積	15,699㎡		12,028㎡		

**検討スケジュール  
について**

今年度から始まる石山部会について、今後の進め方のイメージを共有するために、過去に実施した統合スケジュールを基に、スケジュール案の説明がありました。

**[事務局説明]**

- 平成27年度は、全6回程度の部会開催を想定
  - 統合校や統合時期等が決定した場合は、年度内を目途に教育委員会へ意見書を提出
  - 意見書提出後は、速やかに地域への説明会等を開催
  - 28年度は、校名・校歌の検討や両校児童の交流事業等を実施
  - 統合は最短でも平成29年4月以降
- (※ 石山地区における統合校の施設整備に関し、今年度、教育委員会において、施設に関する調査・設計などを実施予定)

## 委員から寄せられた 意見など

### ◆質問

第1回石山部会では、委員から以下のようなご質問、ご意見がありました。

- スケジュールについて今年度中に統合校の位置などを決めなくてはならないのか。

#### (事務局回答)

イメージを共有するための案としてお示ししたものですので、スケジュール案の通り進めなくてはならないというものではありませんが、統合校の位置を決めないと、跡地活用といった他の議論が進みませんので、まずは統合校の位置を決めていく必要があると考えています。

- 今回からこうして部会による検討になったが、教育委員会としては、このような組み合わせ（石山部会と芸術の森部会）で進めていくつもりなのか。

#### (事務局回答)

これまでの検討経緯から連合会単位に分かれて個別に検討していくこととなりましたが、部会での検討の結果、全体の検討委員会に戻るということも可能と考えています。

- 石山小学校と石山南小学校の児童数の推移はどうなるのか。どの程度減少するのか。

#### (事務局回答)

現在の0歳児から5歳児をもとに推計すると、転居などがなければ石山小学校はほぼ横ばい、石山南小学校は減少して現在の石山小学校程度の規模になると思われます。

- 検討経過や今後の方向性などについて、地域や保護者にきちんと説明する機会を設けて欲しい。

#### (事務局回答)

そのような場を設けることはとても重要なことと認識しております。ただ、現時点では統合校の位置や統合の時期など皆さんの関心の高い部分が決まっていないため、ある程度まとまってきた時期に開催したいと考えています。

### ◆意見

- 小規模校にもそれなりの利点があるものの、地域全体のことを考えた場合に統合せざるを得ないといった判断になっていくのはやむを得ないと考えるが、きちんと地域の理解を得られるように進めていく必要がある。

- こういった大きな問題については、地域全体の声を拾いながら進めていくべきだが、子や孫が関係しない地域の方の関心は高いとはいえないので、教育委員会の責任で方向付けなどを行っていくべきである。
- 保護者の中に、すでに統合校が決まったという噂が広がっており、否定をしてもなかなか払拭することは難しい。
- 保護者の中では、統合の賛否ではなく、「いつ統合するのか」ということに関心があるように感じる。
- 今話し合っていることは、ほとんどが地域や保護者自身の都合に感じるが、最も大切なのは子どもや教育環境のことであり、まずは子どもたちの将来のことを考えていくべきである。
- 母親の目線からすると、統合で学校自体がどうなるのかよりも、わが子が安心して通学できるかどうかに関心がある。
- 実際問題として、子どもの数が少なくなるということは、保護者や先生の数も少なくなる。今は保護者の「手」も先生の「手」も、足りていない状況にある。
- ほかの地域はわからないが、石山の子どもたちは「まち」によって守られ、地域の皆さんによって育てられている。
- 統合によって「空き校舎」が発生するが、このような施設の今後の利活用についても、この部会で検討していくべきである。
- 全員が同意見でまとまるということは難しいと思うが、子を持つ親としては1学年1学級よりも複数学級の方が望ましい。
- バス通学は、距離だけで画一的に決めるのではなく、冬季などの状況も踏まえて弾力的に捉えるべきである。
- 子どもたちの人間関係は、新学期を迎える4月にリセットされるが、今はクラス替えがないことから、担任の教員しか替わらない。クラス替えができるようになると、教員だけではなく子どもの中でも新たな人間関係を作るきっかけになる。
- 話し合い、学び合いは児童数が多いほどメリットが大きいと考えている。また、学校運営的には教職員の人数が少ないと研修や打ち合わせの機会が持てないといったデメリットがある。
- コミュニケーション能力を育てるためには、やはりある程度の人数の中でないと育成が難しい。
- 学校の規模は大きすぎても小さすぎても難しく、それぞれにメリットとデメリットがあるが、最終的にはこの地域の子どもたちのためにどうしたらいいかを考えていくべきである。

## 委員の構成について (順不同・敬称略)

石山部会では、より多くの方のご意見をお聞きすることが重要と考え、新たに「まちづくり協議会」の代表者等にもご参加をいただき、全20名の部会として発足しています。委員の一覧は下記のとおりです。

福士 昭夫	石山地区町内会連合会	会 長 (部会長)
小林 伸	同 上	副会長
阿部 和一	同 上	副会長
南 玲子	同 上	女性部部長
土井 満洲男	石山地区まちづくり協議会	まちおこし部会
寺田 政男	同 上	福祉部会
五十嵐 敏明	同 上	青少年・子ども部会
稲葉 泉	同 上	スポーツ部会
宮下 進治	同 上	事務局
吉山 直子	同 上	事務局
上野 まどか	石山小学校 P T A	会 長
武田 敬子	同 上	副会長
中村 綾	同 上	会 計
河井 裕司	石山南小学校 P T A	会 長
中川 亜希子	同 上	副会長 (他1名)
萬 智子	石山小学校	校 長
附田 裕哉	石山南小学校	校 長
大室 道夫	幌西小学校	校 長 (統合経験校長)
松井 博和	道銀地域総合研究所	顧 問 (司 会)

## 第2回の石山部会 について

第2回の石山部会は、今回の検討に引き続いて統合校の場所などを検討することとし、7月下旬の開催を予定しています。

■ ご意見・ご質問は、下記の検討委員会事務局までお寄せ下さい ■

■ 石山・芸術の森地域 学校規模適正化検討委員会 事務局 ■

札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課 (学校規模適正化担当)

〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 S T V北2条ビル

T E L 011-211-3836 / F A X 011-211-3837

E-mail gakkokibo@city.sapporo.jp

※ この検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載予定です。

<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoutiiki.html>